

ホタテガイ養殖管理情報

新貝の掃除等は、中層水温と体力回復の両方を確認してから始めましょう

1 海況

8月28日～9月2日の各ブイの中層（10～15m層）の水温は21.3～24.0℃で（図1）、概ね平年並みの状態です。

2 新貝の養殖管理について

ホタテガイ新貝および成貝は、20℃で成長が止まり、それ以降は中腸腺（ウロ）や貝柱の栄養を使って生命を維持しますが、水温が高くなるほど栄養の消費が激しくなり、最後は栄養不足でへい死します（図2、3）。

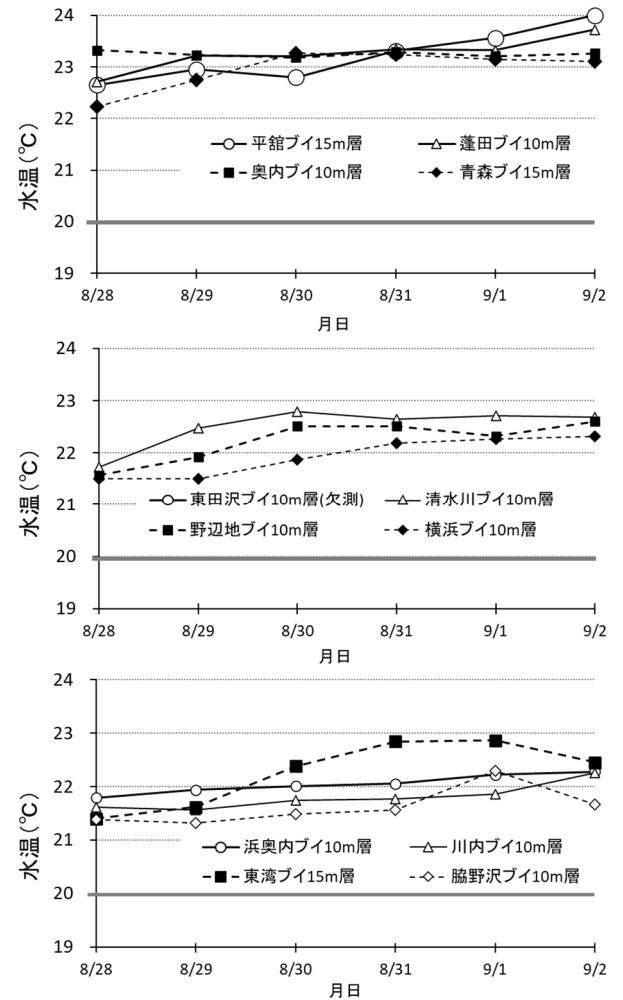


図1 海況自動観測ブイ（15m層）と水温観測ブイ（10m層）での日平均水温の変化

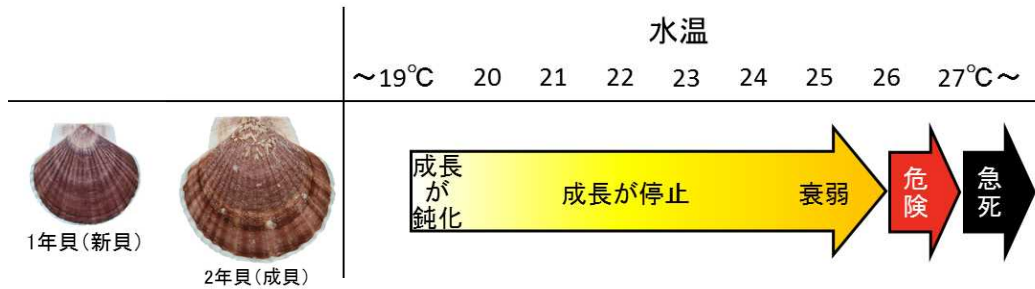


図2 新貝および成貝の成長と生残率に与える水温の影響

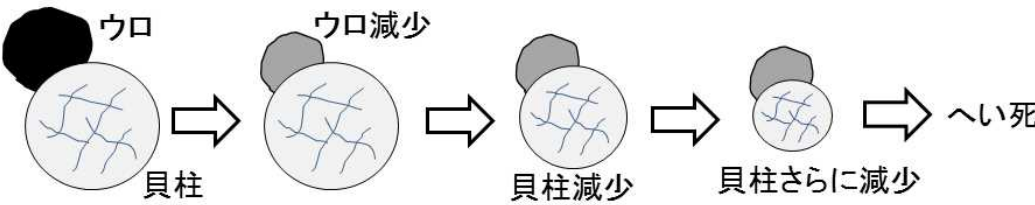


図3 高水温が続いた場合のホタテガイのへい死メカニズム

今夏の中層の水温について、7月中下旬に平年よりも早く20℃に達し、7月中旬から8月上旬にかけて高めに推移したため（陸奥湾海況情報No. 1353）、今後の作業では例年よりも貝の体力面に注意を払う必要があります。また、適水温まで下がる前に作業を行うと、へい死率や異常貝率が高まる傾向がみられます（図4）ので、新貝の作業（玉付け・籠替え・掃除）は、中層の水温が20℃を下回り、貝の体力回復の目安となる「フチがまわっている」ことを確かめてから開始しましょう。

※籠や耳吊りが海底に着底している場合は水温が22℃前後でも玉付けを行っても構いません。

3 稚貝分散について

稚貝の状況や作業時の注意点については、9月中旬に発行予定のホタテガイ養殖管理情報第5号に掲載します。

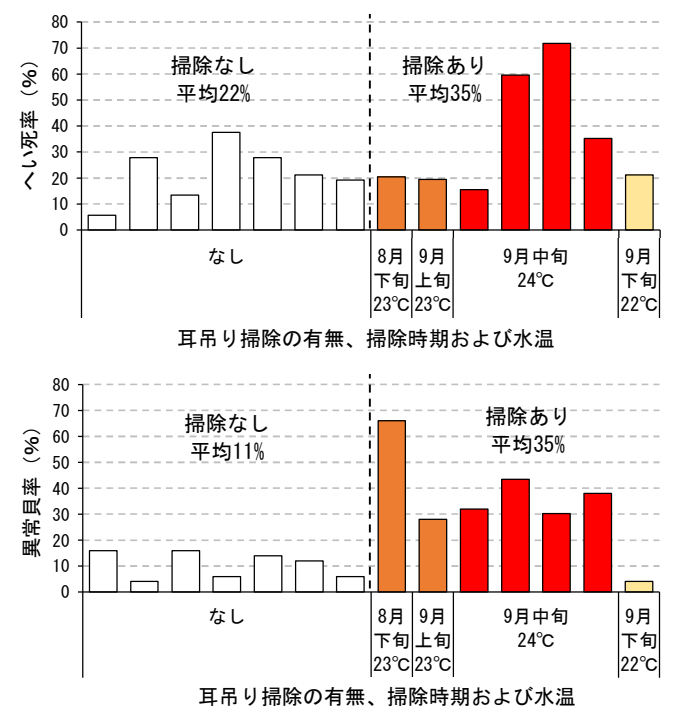


図4 耳吊り新貝の掃除時期別へい死率及び異常貝率 (R1年秋季実態調査)